

つくばエキスポセンター特別展示が終了しました

技術移転部移転推進室交流チーム長 猪井喜代隆

農研機構農村工学部門は、農業・農村や農村工学の研究について紹介するためつくばエキスポセンター1階の「サイエンスシティつくば再発見」のコーナーにて9月4日まで「未来の農村を創(つく)る研究」と題して特別展示を実施いたしました。

期間中は、夏休みだったこともあり、たくさんの「未来の研究者のたまご」を中心に様々な方に農村工学部門の研究をご紹介することができました。ご来場いただきました皆様にお礼申し上げます。

また、つくばエキスポセンターの関係者をはじめたくさんの方々のご協力をいただきましたことにお礼申し上げます。

(参考)

茨城県のホームページでも特別展示について紹介されました。

8月5日に行いました「研究学園都市にある身近な農業水路のネットワーク」について茨城県県南農林事務所土地改良部門(土浦土地改良事務所)様の発行する「県南ミドリんだより 第6号(平成28年8月18日版)」にて紹介していただきました。当日のイベントでも管内図をご提供いただくなど多大なご協力をいただきました。今後の土地改良事業への理解と発展に微力ながら当研究部門も寄与できたかと思えますと研究業務の励みにもなるかと思えます。

「県南ミドリんだより 第6号」のページはこちら。

http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nannourin/tochi/h28midorindayori_06.html

つくばエキスポセンター特別展示実験・体験レポート(その3) ～「味で体感～お米の塩害～」～

農地基盤工学研究領域 用水管理ユニット 友正達美

8月10日(水)に、つくば市のエキスポセンター1階で、特別展示企画として「味で体感～お米の塩害～」を実施しました。これは東日本大震災の被害から復旧した農地において、地盤沈下の影響による塩害を防ぐための調査・研究を行っていることに関連して、実際どれくらい「塩っぱい」水でイネの塩害が発生するのか、来訪者に味見をしていただくという企画です。昨年度の一般公開で行い好評だったことから、今回、エキスポセンターでも開催することとなりました。

あらかじめ、ペットボトルのミネラルウォーターに食塩を加えて、電気伝導度でそれぞれ2.0mS/cm(イネの塩害が発生する下限相当)、8.0mS/cm(トマトを甘くするとされる塩水相当)、15.6mS/cm(生理食塩水相当)、45mS/cm(海水相当)になるように調整し、それを小さな紙コップで試飲していただきました。なお、海水相当の食塩水はもちろんかなり塩辛いので、口直し用のお茶も用意しました。

午前10時30分からと午後2時からの2回、それぞれ1時間で、のべ約100の方がこの企画に参加してくださいました。イネの塩害が発生する2.0mS/cmの塩水については、「少し味がする」「ぜんぜんわからない」と、反応が分かれましました。結果を記録してはいませんが、大人より子供の方が塩分に敏感だったような印象を受けました。イネがいかに塩分に対して敏感で弱い作物であるか、この展示企画を通じて実感していただけたのではないかと思います。



つくばエキスポセンター特別展示実験・体験レポート(その4) ～ミニ講演「田んぼのカエル、里のカエル」～

水工学研究領域水域環境ユニット 渡部恵司

つくばエキスポセンター（茨城県つくば市）で開催中の特別展示のイベントとして、8月13日に、「田んぼのカエル、里のカエル」を開催しました。

夏休みということもあり、茨城県内外から多くの親子連れがイベントに参加しました。生きたカエルの展示では、普段カエルを見る機会のない子ども達も多く、大きなアズマヒキガエルと変態したばかりの小さなニホンアマガエルの大きさの違いに驚いたり、恐る恐る撫でてみたりと、カエルについて知る貴重な機会となっていました。また、大人にとっても、カエルを見る機会は少なく、カエルを前に子ども達と同じく目を輝かせていました。

イベントでは、4種類の生きたカエルを展示しながら、カエルの種類ごとの外見や生態、行動の特徴を解説し、農村でカエルが減っている現状やカエルの生息場を守る取り組みについて説明しました。農村工学研究部門では、農業水路における生態系保全に関する研究の一つとして、コンクリート水路に落ちたカエルが脱出できるように、脱出しやすい水路の条件を調べたり、「肋木式脱出工」を開発したりと研究開発を進めてきました。ミニ講演では、カエル類の生息場を守る必要性やこれまでの研究成果についても解説しました。講演のところで説明に大きくなずく参加者も多く、皆さんに研究の背景を知っていただけたと感じています。

今後も機会を見つけて、農村の生き物やその生息場を守る研究について分かりやすく紹介したいと考えています。最後に、イベントに来てくださった皆さんと、イベントの準備や当日の運営を手伝ってくださったエキスポセンターの担当者、農村工学研究部門職員の皆さんにお礼申し上げます。

これまでの研究成果情報の URL

「農業水路に設置するカエルの脱出対策の必要条件」

<http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/nkk/2009/nkk09-18.html>

「効果が高く、簡易・安価なカエル類脱出工」

http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/nkk/2012/411b0_06_08.html



←ミニ講演の様子



初めて観察するカエルに興味津々→



←ミニ講演の後も、カエルを間近で観てみたい子ども達が集まっていました



大きなアズマヒキガエルにおそろおそろ手を伸ばす子も。→